

科目名	民事訴訟法 I	
担当者	笹邊 将甫 / SASABE, Masatoshi	
科目情報	法律 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	<p>私人間において実体法上の権利義務や法律関係の存否をめぐって生じた紛争を対象として、その解決のために裁判所で行われる手続を民事訴訟といいます。本講義では、このような民事訴訟の基本的事項を解説していきますが、対象とする範囲は、訴え提起から判決に至るまでの狭義の意味での民事訴訟、すなわち判決手続です。</p> <p>民事訴訟法 I では、訴え提起から上訴までの一連の流れについて、基本となる事項や条文、基本判例を中心として、平易に解説していきます。</p>
	到達目標	<p>判決手続の基本原則や用語などの基本的事項に関する知識を獲得するとともに、判決手続の流れを理解し、その背景にある諸原則を理解する。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (授業内容・授業方針・成績評価基準) 及び民事手続の概略と位置付け (2) 訴訟の開始①——訴え・裁判所 (32-66頁) (3) 訴訟の開始②——当事者 (66-77頁) (4) 訴訟の開始③——訴訟担当と代理 (77-86頁) (5) 訴訟の審理①——審理の対象 (88-98頁) (6) 訴訟の審理②——審理の過程 I (98-138頁) (7) 訴訟の審理③——審理の過程 II (98-138頁) (8) 訴訟の審理④——証明 I (138-174頁) (9) 訴訟の審理⑤——証明 II (138-174頁) (10) 訴訟の終了①——当事者の行為による場合 (176-190頁) (11) 訴訟の終了②——終局判決による場合 (190-209頁) (12) 複雑な訴訟①——複数請求訴訟 (212-222頁) (13) 複雑な訴訟②——多数当事者訴訟 (222-257頁) (14) 不服申立手続——上訴・再審 (260-290頁) (15) 簡略な手続——少額訴訟・手形小切手訴訟・督促手続 (292-305頁) 	
自学自習	事前学習	<p>上記の授業計画には、その回の講義で扱う部分の教科書の該当頁を示しています。受講者には、該当頁を予め読んでくることを希望します。</p> <p>また、開講時までには、福永=井上『アクチュアル民事の訴訟』(有斐閣、2005)を読むことをお勧めします。</p>
	事後学習	<p>Moodle上で実施される小テストを毎回受験して、講義内容を復習しておいて下さい。任意提出のレポートを課す予定です。</p>
使用教材・参考文献	<p>【教】上原=池田=山本『民事訴訟法〔第6版〕』(有斐閣、2009) ISBN:978-4-641-15931-0</p> <p>【参】上原=池田=山本『基本判例民事訴訟法〔第2版補訂〕』(有斐閣、2010) ISBN:978-4-641-13582-6</p> <p>※その他の文献は講義中に適宜紹介する予定です。</p> <p>なお、講義には、Moodle上で配布されるレジュメを各自で印刷して、毎回持参すること。</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法> 小テストの結果(30%)、筆記試験の結果(70%)を総合評価します。</p> <p><基準> 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>※詳細については、初回のガイダンス時に説明します。</p>	
備考	<p>◆六法を毎回持参して下さい。◆小テストやレジュメの配布には、Moodleを利用します。</p> <p>◆民事執行法 I・II を併せて履修すると深く学習できます。</p> <p>初回のガイダンスには必ず出席して下さい。重要な点について説明を行います。</p>	